

# 正調日光和楽踊りの伝統継承と

魅力発信に努めるリーダー



## 正調日光和楽踊り舞楽部

代表：荒井 重男さん

- ◆お囃子を始めたきっかけは？
- ◆実際にやってみてどうでしたか？

- ◆和楽踊りの魅力について教えてください。
- ◆お祭りの見どころを教えてください。

- ◆和楽踊りの今後について
- ◆インタビューを終えて：

- 和楽踊りを「自分の青春そのもの」と語る荒井さん。その眼差しには日光市が誇る伝統芸能の継承者としての情熱があふれています。
- 今年の和楽踊り、100年以上続く伝統を、ぜひ皆さんも肌で感じみてはいかがでしょうか。

月は、8月に清滝地区で行われる「日光和楽踊り」の「お囃子を担当する『正調日光和楽踊り舞楽部』」を、長年にわたり率いてきた代表の荒井重男さんを紹介します。荒井さんは、大太鼓を中心につけ（小太鼓）や鉦の演奏をこなし、平成5年に同舞楽部の代表に就任後、若手部員の指導や国表における数々の公演、テレビ出演などを精力的に行い、「正調日光和楽踊り」の伝統継承と魅力発信を続けています。

### ◆お囃子を始めたきっかけは？

安良沢の古河電工社宅で少年時代を過ごした私は、「お囃子を始めたきっかけは？」の伝統継承と魅力発信を続けています。

祭りの夜、やぐらの上でお囃子を演奏している人たちを見て、

「自分もいつかあの場所で太鼓を打ちたい」と夢を抱くようになつたのがきっかけです。

### ◆実際にやってみてどうでしたか？

実際にお囃子を始めたのは、古河電工の従業員養成所を卒業してからです。当時のグループサウン

ズのバンド仲間がお囃子をやっていたこともあり、長年の夢だったお囃子の世界に入りました。

バンドで培つたりズム感のおかげで、お囃子にはすぐになじめましたが、和太鼓を打つのは初めてだったので、最初のうちは良い音が出せずに苦労しました。

### ◆和楽踊りの魅力について教えてください。

正調和楽踊りには、「手踊り」「笠踊り」「石投げ踊り」の3種類があります。特徴的なのは「石投げ踊り」で、足尾銅山の銅鉱石を選別する動作を表現したものですが、現在もお囃子は、唄を除き音響施設を一切使いません。笛、鉦、太鼓の音色が隣の村まで聞こえるくらいに全身全霊で演奏するため、2曲演奏するだけでへとへとにっこります。リズムを乱さずに、ここまで激しく大音量で演奏する盆踊りは、他を探してもあまり例がないのではないかと思います。

### ◆お祭りの見どころを教えてください。

和楽踊りの演奏は、一度始まつたら絶対に途切れさせてはいけません。このため、池畔に2つのやぐらを設置して30分ずつ交互に演奏します。交代の際は、やぐらの下から2つのやぐらに同時に指示

を送り、スムーズに演奏を引き継ぎます。これは「やぐら移し」と呼ばれる見どころの一つで、毎年私が指示を行っています。演奏が切り替わる瞬間の臨場感を、ぜひ会場でご体感ください。



◆日光和楽踊り  
日時：毎年8月の第1金曜日  
(今年は5日午後7時～9時)  
場所：古河電工・日光事業所